茨木市・高槻市富田の大阪北部地震被害調査

近畿大学建築学部
減災学研究室　安藤尚一

１．被害調査の概要

2018 年 6 月 18 日午前 7 時 58 分に大阪北部で発生したマグニチュード 6.1、最大震度 6 弱の大阪北部地震の被害調査を、地震の翌日 6 月 19 日午前 7～9 時に茨木市中心部と高槻市富田地区において実施した。いずれも震度 6 弱の地域であり(図１、図２参照)、明治以前から続く古い町として知られている。

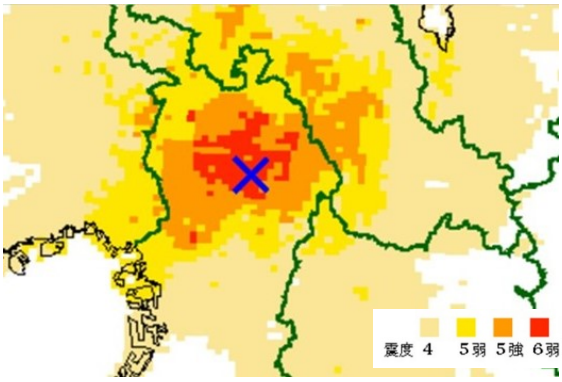

図１　気象庁による震度分布図

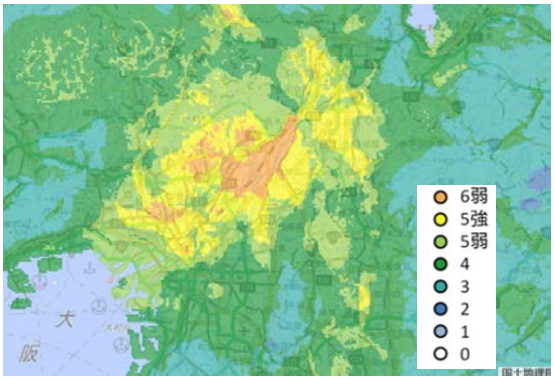

図２　防災科研による震度分布図

２．大阪北部の古い町

茨木市、高槻市、枚方市にはそれぞれ中心部に古くからある町が存在する。今昔マップを用いて今から 120 年ほど前と現在の中心市街地を見ると図３～図６の通りである。

図３　茨木市中心部

図４　高槻市中心部

図５　枚方市中心部

図６　高槻市富田地区

３．位置・市街化の経緯

大阪北部地震で震度 6 弱を観測した 3 市の位置関係を今昔マップでみると、図 7 の通りである。地震はこの図のほぼ中央を震央として発生した。現在はほぼすべての地域が市街化されているが、120 年前は図 7 の左側の通り、3 市の中心市街地と富田村(当時)以外は農村または農地であった。これらが市街化されたのは阪急京都線(1921 開業)や京阪電鉄(1910 開業)などが通ってからで、急速な都市化は 1950 年代から 1970 年代にかけてみられる。

図 7　震度 6 弱を観測した地域の約 120 年前と現在の状況（今昔マップより）

４．茨木市中心部の被害

JR 茨木駅から阪急茨木市駅の中間に茨木市役所と中心商店街がある。この一帯が古くからの市街地で神社、仏閣を含め古くからの建築物が存在することから、人命救助や応急対応が済んだと思われる地震の翌日の早朝に調査を実施した。行動は図 8 の通りで、主な被害や地震からちょうど 1 日後の現地の状況は、図 9 ～図 12 の通りである。

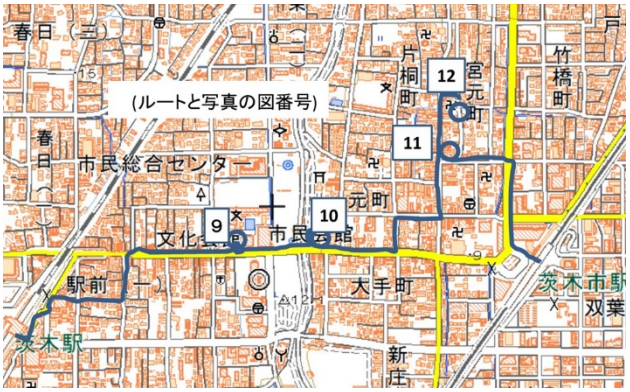

図 8　茨木市中心部調査地区

図 9　避難所となった茨木市立養精中学校

図 10　茨木神社の塀(伝 茨木城搦手門移築)

図 11　宮本町 6 の民家の瓦屋根被害

図 12　浄教寺山門の被害　（右の写真 12-2 は浄教寺南側の道を別角度から撮影）

5．高槻市富田地区の被害

茨木市の調査を(6 月 19 日)午前 7 時前から 8 時前に行い、続いて高槻市富田地区の調査を 8 時過ぎから 9 時半まで行った。その時の写真を図 13 から図 26 に示す。120 年前にも存在していた道に沿って古い建物を中心に被害状況を調べた。

図 13　寿酒造の裏手(屋根吹替工事中)

図 14　寿酒造の建物(外見上無被害)

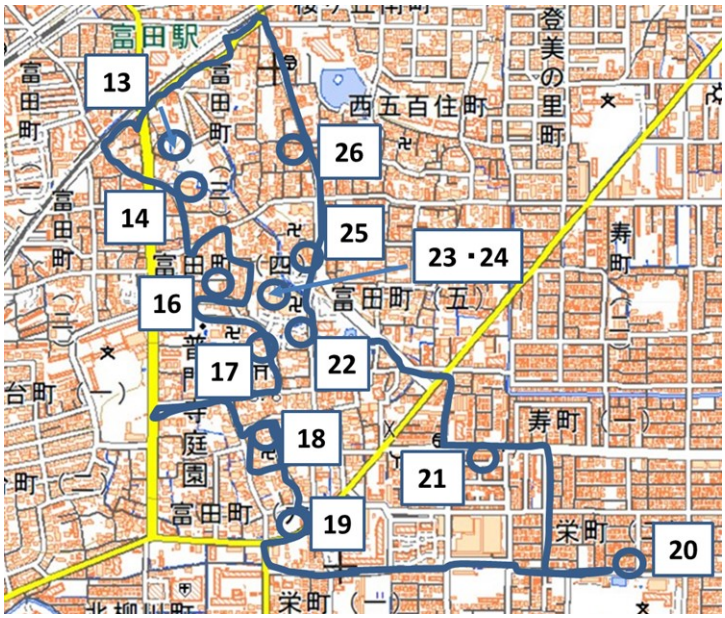

図 15　高槻市富田地区の調査ルートと写真の図番号

図 16　倒れかけのブロック塀

図 17　三輪神社の石灯篭(1 つを除き倒壊)

図 18　教行寺本堂の屋根瓦の損壊

図 19　富田町病院南側の民家の屋根被害

図 20　寿栄小学校の倒壊したブロック塀

図 21　高槻市栄町 2 丁目 6 の民家の屋根

図 22　眞楽寺南側の民家の屋根(シート済)

図 23　本照寺東側の墓地(墓石は東向き)

図 24　本照寺北東角の(ブロック)塀の被害

図 25　筒井池公園東側入口の側溝の被害

図 26　マンションの外壁タイルの被害

6．まとめ

古い地域では屋根瓦の被害がかなり見られた。また、ブロック塀も倒壊、割れ、傾き被害が散見された。商店街では店の内部の片付けも行われていた。雨季のためかブルーシートをかけたり、赤いコーンを置き落下位置の注意を促したりしている個所も多くみられた。外壁タイルの落下も見られたが、RC 等の構造被害は、外観からは見つけられなかった。(以上)